

「大分市立学校適正配置基本方針(案)」に関する  
市民意見公募に寄せられた意見の概要とそれに対する本市の考え方

意見募集期間: 令和3年11月15日(月)～令和3年12月15日(水)

意見提出者: 5名

意見件数: 5件

番号	意見の概要	意見に対する本市の考え方
1	PTAや有志活動によって複式学級解消にむけて、学校紹介のリーフレット作成等、他校からも子どもたち毎日が行きたくなる学校を自然体なカタチで実現してきた。統廃合の話もあるが、伸び伸びと課外授業も豊富な神崎小学校の存続をこれからも必要不可欠な特任校の役割だと思っている。	貴重なご意見ありがとうございます。いただきましたご意見については、今後の小規模特認校制度の運用の参考とさせていただきます。
2	小規模特認校は少人数であるがゆえに、学ぶことにしっかりと専念できる環境があり、教員の目が行き届いていると思う。小規模特認校に指定された校区外通学率が高い神崎小学校を残しておくことを強く望む。	
3	校区の学校に通っていたがクラスの学習する雰囲気を感じることが出来ず、他に学習できる環境を求めていたところ市報やインターネットの検索で小規模特認校制度を知った。大分市中心部からそう遠くもなく、自然豊かな環境のうえ学校での体験活動は魅力的だと思い特認校制度を利用することにした。児童も縦割り班で役割分担しており、異学年と交流などから勉強以外の学びもあり、少人数であるがゆえに学習面においても目が行き届いてると感じる。途中転入されてくる方も多く、小学校生活の6年間の中で悩みがあるときに特認校制度が残っていること、選択肢があることは重要だと感じる。	
4	特別支援学級に行くほどではないが、フォローが必要な子どもにとっては、小規模特認校は1クラス10人、全校60人ほどという、ちょうど良い人数なうえ、やはり隅々まで大人の目が届いている感じを受け、安心して通わせることができた。  小規模で、大人の目が届く公立の中学校と考え、小規模特認校の竹中中学校を見学に行ったが、駅から距離があり身体的に難しく、神崎中学校は駅から徒歩5分でしたが、小学校に在籍していないと通えないと言われ断念。  地元の中学校に試しに通ったとしても、息子に合う学習方法を中学校と模索するのは、たった3年間の中では難いうえ、親の負担も大きくなる。制服や体操服が無駄になるのなら、その分の出費をフリースクール等にかけての方が効率的と考えることにし、初めから公立に通うことを諦めた。  もっと子どもに寄り添った、今の時代に合う学校のスタイルを考えてほしい。	
5	二点伺いたい。 一つは、特に過小規模校の児童数について、学級数の記述で、6学級で各学級10人以上あるいは10人前後ならいいが、例えば10人を大きく下回るとだめなのか。 二つは、小学校の統合と通学距離4キロ未満について。ある学校を廃止する場合、その学校の子どもたちは、全員が近くの統合校に通うことになるのか。あるいは、地域によっては東部の子どもたちはA学校に、西部の子どもたちはB学校になるのか。	